

シンガポール社会の晩婚化・未婚化・少子化に対する親学歴の影響について  
— 「トーナメント競争マインドセット」は世代を超えて継承される —

シム チュン・キャット (昭和女子大学)

本発表では、シンガポール社会における晩婚化、未婚化および少子化の問題に影響を与えうる「トーナメント競争マインドセット」の背後に、親の学歴も要因の一つとして作用する可能性について考察する。

1. シンガポールの教育事情

天然資源の乏しさを補うため、シンガポールは東南アジア中心部という地理的優位性を背景に、その好立地条件を最大限に活用できる人材の育成を強く推進し、驚異的な経済発展を遂げてきた。そのようなシンガポールにおける人材育成の最大の推進エンジンとして機能しているのが学校教育であることは簡単に想像できよう。

シム (2020) にも指摘されたように、国の成長を支える優秀な人材を選別すべく、シンガポールでは学校教育の早期段階から児童生徒を能力別に振り分ける複線型教育が長年実施されてきた。そうした「トーナメント移動型」ともいえる教育競争が全国レベルで行われることがまたシンガポールの特徴でもある。言うまでもなく、トーナメントというからには勝ち続けなければ、いずれ淘汰されて競争の土俵から降りるか、敗者復活戦にまわってこれまで以上の努力を重ねながら再起を目指すしかない。

2. 「トーナメント競争マインドセット」の浸透

さらに、小学校から始まるこうした教育競争の帰結としてもたらされる強固な「トーナメント競争マインドセット」が、学校教育を終えた段階においてもシンガポール人の意識に深く浸透し、シンガポール社会の晩婚化、未婚化と少子化に大きく影響を与えている可能性が高いことがシム (2020) でも示唆された。

そのため、結婚支援、住宅支援や保育・養育支援など、シンガポール政府による充実した少子化対策が講じられてきたにもかかわらず、期待されるような成果が上がっていないのが現状である。松田 (2021) も主張したように、教育競争とその後も続く激しいキャリア競争、つまり国民の間に根付く「トーナメント競争マインドセット」が変わらない限り、少子化対策にいくら力を入れても少子化の背景要因との間のミスマッチは解消されない。

3. 親による影響の可能性

一方で、こうした「トーナメント競争マインドセット」の形成に、本人が体験する制度的方向付け以外に、親世代の教育経験と学歴も寄与しているのではないかとすることも考えられる。Brown (1997) によれば、市場に基づく競争原理が働く以上、子どもの教育達成と教育的選抜に及ぼす影響は、個人の能力 (ability) と努力 (effort) よりもむしろ、親が持つ資源 (resources) と優先的選択 (preference) に規定されるようになっている。ペアレントクラシーと名付けられたこの Brown の概念に従えば、シンガポール社会に根深く広がる「トーナメント競争マインドセット」、ひいては晩婚化、未婚化と少子化に親の学歴がどのような効果を持つのかに着目する必要があるだろう。そこで本発表では、シンガポールの公的統計および現地の若者を対象とした個別面接質問紙調査の結果をもとに、親の学歴もシンガポールにおける少子化の要因の一つとなっている可能性に分析の焦点を当てる。

【引用文献】

- Brown, Phillip, 1997, "Cultural Capital and Social Exclusion: Some Observations on Recent Trends in Education, Employment and the Labour Market," Halsey, A. H., Lauder, Hugh, Brown, Phillip and Wells, Amy Stuart eds., *Education: Culture, Economy and Society*, Oxford: Oxford University Press, 736-749.
- 松田 茂樹, 2021, 『[続] 少子化論 — 出生率回復と〈自由な社会〉』学文社。
- シム チュン・キャット, 2020, 「シンガポールにおける複線型教育がもたらす少子化への影響 — 「トーナメント競争マインドセット」とその罫 —」『家族社会学研究』32 (2): 187-199。

(キーワード: 少子化、トーナメント競争マインドセット、親学歴)

本研究は JSPS 科研費 JP 18H00936 の研究成果の一部である。